

(様式第1号)

平成24年度 第4回芦屋市社会教育委員の会議 会議録

日 時	平成24年11月13日(火) 10:00~12:00
場 所	芦屋市立精道小学校 多目的教室
出席者	社会教育委員 議長 樋口 茂 副議長 牧野 君代 委員 安東 由則 委員 信岡 利英 委員 古藪 令子 委員 田中 陽子 委員 上月 敏子 委員 万谷 直巳 Smileねっと運営委員会 代表 宇佐見 裕子 委員 土居 郭子 委員 永江 美香 委員 川上 紫乃
事務局	社会教育部長 西本 賢史 生涯学習課長 長岡 一美・生涯学習課主査 細山 由美・生涯学習課 北詰 真衣
会議の公表	■ 公開
傍聴者数	0人

1 会議次第

- (1) 開会
- (2) Smileねっと活動見学
- (3) Smileねっと運営委員との意見交換会
- (4) その他
- (3) 閉会

2 提出資料

- ・レジメ
- ・研修会の発表内容(案)

3 審議内容

－Smileねっと活動見学－

<樋口議長>

それでは、Smileねっと運営委員が合流して意見交換を行う前に、阪神南地区社会教育委員協議会研修会の発表内容について、事務局より説明をお願いします。

<事務局：北詰>

(提出資料に基づき報告)

<樋口議長>

今の説明について、何かご意見ございますか。

<万谷委員>

全体的にはこれで良いと思います。前回会議の際も延べましたが、コーディネーターをどのように育成していくかという課題があります。行政の方でもコーディネーターの認証制度など設けるなどの努力をしていただきたいと思います。これは研修会で発表することではないですが、研修会では課題を解決していく形での流れに出来たらと思います。

<安東委員>

全体的なことを把握していただくため、Smileねっとの全体の組織図を発表資料に掲載している方が良いでしょう。

<信岡委員>

新しく取り組みを始めている学校について、紹介することは大事だと思います。

<事務局：北詰>

活動する組織が徐々に増えている点について、皆さんに知っていただくようにします。

<古藪委員>

あとはどのようにうまく説明できるかです。改めて田中委員と事務局とでまとめて良い発表が出来るようにしたいと思います。

<田中委員>

皆様に楽しく、そして課題を問いかけるような発表に出来ればと思っております。

<上月委員>

教育委員会事務局にいる時に、図書館を何校か改装するという話が出ました。しかし、中学校から、図書館は死角があり、子どもたちの生徒指導上問題があるので常に鍵をつけておかないといけないと言われたのがすごく閉鎖的な印象として残っています。

その時から比較すると、今回精道小学校のSmileねっとをはじめ、ネットワークが立ち上がって、それが市内に広がりつつあるというすばらしい取り組みを発表していただけることは非常に嬉しいことと感じております。

地域や保護者の方が学校の壁を打ち破ってくださることは、本当にありがたいことです。

<牧野委員>

活動実績は、団体の一番の強みになります。ぜひ広がりを見せていただけたらと思います。課題についてはコーディネーターの育成について質問が出ると思います。

<樋口委員>

人の力が一番大きいです。気負わず、楽しく活動していると人がまわりに集まってきて、それが広がりにつながると思います。色々な人との出会いが、新しい人材の発見にもなります。

校区の中には色々な技術をお持ちの方がおられますので、そういった人材の発掘と、万谷委員の意見でもありましたように、そういう方を認証して、スポットライトを当てるのが、私は社会教育委員の役割の一つだと思います。

自分が率先して活動することも、社会教育委員の大きな役割となりますが、地域におられる人材を知っていただくことも大切です。ですから、会議の中でそのような情報をたくさん出していただければ、それがきっかけとなり人材の発掘につながるのではないかと思います。

また、発掘した人材に、いかに飽きさせないで続けてもらうかが活動を継続していく秘訣だと思っております。

社会教育委員としてどのように連携していくかという点でも皆様に意見をいただきたいと思っております。

<万谷委員>

ボランティアでも活動費は必要ではないかという質問も出るかと思います。

<安東委員>

学校地域連携に対する具体的な見通しを、共有する必要があると思います。社会教育委員の中で話し合っ、支援を考えることが必要ではないでしょうか。

<万谷委員>

ボランティアだけで運営をすると、継続性に問題があり、運営が段々と難しくなります。やはりどこかで費用の面でも持ち出しが出てしまうので、続かないのではないのでしょうか。そういった意味でも何かの支援は必要だと思います。

<信岡委員>

地域のつながりというのは、保護者までは連携をしやすいですが、そこから外れると途端に疎遠になってくる傾向があります。

地域連携というのは、例えば、公園の花壇などを管理するボランティアが今各地域で出来ていて、手入れの様子などを近くの幼稚園の子どもが散歩などで目にする機会があります。このように、子どもたちが地域の活躍を見て回るといのは、町に対する認識を深めることにもなりますし、また普段関わりのない大人との接触の機会でもあります。また、手入れをしているような方達は、自分たちが楽しむだけではなくきれいに手入れした花壇を人に見ていただきたいという気持ちもあります。そういったところから、会話が生まれるきっかけとなり、保護者のみの組織作りから、広がっていけばと思います。

<古藪委員>

S m i l eねっとの活動に自分自身参加をして感じたことですが、地域の方の参加がやはり少ないです。学校支援活動ということで、P T Aの方が周知もしやすく、どうしても保護者の方が中心となって活動している現状があります。

今は良いですが、今参加している保護者が、お子さんが小学校を卒業した時に、今度は地域のボランティアとしてこのS m i l eねっとに残ってくれるのか、それが今大事な時期だと思います。地域の方として残ってくだされば、どんどん地域のお手伝いも増えてくるし、広がりが出てきたら、本当の意味の学校地域連携になると思います。

今は、地域の方の参加が少ない為、どうしてもお母さん方のお手伝いの場という雰囲気があります。私自身も参加した時にそういう風を感じてしまうし、これだけたくさんの母さん達がいるなら別に自分が参加しなくても良いのではないかという気持ちになりかねません。

社会教育委員としては、活動の様子を実際に見学させていただくことで、第3者としての、また違った面での意見や課題、改善点など見えてくるのではないかと思います。

今日みたいに、現場に出て意見の交換の場を設けて、活動がより良くなるように取り組むことが社会教育委員の役割として重要だと思います。

<田中委員>

県のPTAの理事会などに出させていただいておりますが、他市は代表として出席されているのはお父さん方がほとんどです。お母さん方が多いのは芦屋と西宮くらいです。芦屋はお父さん方の参加が少ないのだということを感じました。

地域活動でもそうですが、お父さん方の活躍の場がもっと必要であると感じています。芦屋はまだまだお母さん方の参加が圧倒的に多いですが、時間帯などを工夫して、お父さん方の参加が増えれば、活動の幅が広がると思います。

<上月委員>

私も先ほど古藪委員がおっしゃったように、地域の方をもっと巻き込む努力をしないといけないと常に思っています。

先日、本校でふれあい給食を実施しました。精道小校区の方70人のたくさんの方に来ていただき、子ども達との交流をしていただきました。地域にはこれだけたくさんの方がいらっしゃるのだから、もっと学校に足を運んでいただく努力を学校はしないといけないと思います。

例えば、園芸ボランティアでは、花壇の一角をSmileねつの場所としてお任せするとか、精道小学校全体の花壇の計画を、Smileねつと職員が一緒になって企画していくとか、そういう形にだんだん変わっていくと良いかと思います。

<樋口議長>

Smileねつの運営委員さんが到着されましたので、ただいまから意見交換会を始めたいと思います。

—自己紹介—

<樋口議長>

本日の意見交換の主旨について、説明させていただきます。

11月27日に、阪神南地区社会教育委員協議会の研修会がございます。テーマは、昨年度に引き続き、学校地域連携についてとなります。昨年度は、Smileねつと活動に主軸をおいて、発表をさせていただきました。今年度については、お手元に概要資料を配布させていただいておりますが、まず、Smileねつと活動があり、その活動が徐々に他校に波及しはじめていることや、以前から学校地域本部として活動をしている浜風小学校の学びクラブと、Smileねつとの影響を受け新しく地域連携組織として立ち上がった精中応援隊とともに連絡協議会を立ち上げ、情報共有の場を作られていること。また、今学校図書の読みきかせボランティアのグループが各学校にあり、そこでも「本の虫ねつ」という連絡協議会を立ち上げ、情報共有の場を作られてい

ることなど、芦屋市としての学校地域連携の活動を紹介させていただきます。

今日の意見交換で、学校地域連携の運営に関わる皆様の思いをお聞かせいただき、研修会にもって行きたいと思っております。

うれしかった点や、やりがいを感じる点などはもちろん、課題と思っている点について、お話を伺えればと思いますので、宜しくお願いします。

<土居委員>

S m i l e ねっとは地域連携の活動ですが、まだまだ地域の方に浸透していないように感じています。どのように地域に広めていくかという点が、まだ良い方法で出来ないのだと感じます。活動に来ていただければ楽しくしていただけます。ボランティアをやりたいと思っださっている方はいらっしゃいますが、どのように入ってきてもらうか、また、入ってきてもらうためにどのように働きかけたら良いかが課題になっています。

<永江委員>

S m i l e ねっとの活動を始めて、地域の方に目が行くようになり、地域の方にお世話になっているという意識がすごく出てきました。

活動していて一番楽しいと思うのは、学校や外で会った時でも、子どもがあいさつしてくれることです。

<川上委員>

昨年度、P T Aの副会長を経験するまで、参観日や行事のある時にしか学校に足を運ぶことがありませんでしたが、1年間、P T A活動やS m i l e ねっとの活動で学校に来る機会が増え、自分の子どもだけではなく、他の子どもも、母親でなくても大人が学校に来ることでみんな笑顔になっているということがわかりました。

しかし、保護者の方でも、学校に来ることに抵抗がある方がまだまだ多いのが現状なので、地域の方ももちろんですが、もっと保護者の方に来てもらえるように考えていきたいと思っています。

<樋口議長>

皆様におかれましては、S m i l e ねっとの活動に参加するようになって顔見知りが増え、大変満足感があると思います。自分が楽しいと思っていることを、どのように周りの人に伝えるかということが非常に難しいことです。自分が心から楽しいと思っていると、その話を聞いた方が、自分も参加をしてみようという気持ちになり、そのような形で広がりが見えてきます。しかし、どうしても広がりがP T Aの中だけや顔見知りの中だけに留まってしまいがちです。色々な場所で出会いがありますので、外でも行動さ

れると良いと思います。

学校をもう少し足を運びやすい場所にする為、工夫していることがありましたら教えてください。

<土居委員>

今年度、新たな取り組みとして、小学1年生を対象とした「すまいるクラブ」という放課後遊びの活動を始め、すまいるクラブの講師を地域の方をお願いしています。

<宇佐見委員>

昨年度の反省の中で、どのようにすれば地域の方に参加をしていただけるかを考えました。昨年度生涯学習課主催で実施したコーディネーター研修会の中でメニューを増やすと良いというお話がありましたので、今年度活動メニューを増やし給食ボランティアとすまいるクラブを始めました。

給食ボランティアについては、総勢88名の方に11日間にわたって支援していただいたのですが、そのうち7名が地域の方でした。図書ボランティアは地域の方2名に入っています。先日、地域の方から、いつも参加させていただいた時に、ペアになる方が初対面でも同じ地区に住んでいるので、どこかで必ず繋がりが見つかって、それがすごく面白いし、子どもとの関わりももてるのですごく楽しんでやっているというご意見をいただきました。しかし、保護者がたくさんいるから地域が入らなくてもいいのではないかという残念な意見もありました。

現在、図書ボランティアの登録が73名いらっしゃいます。7月から毎日朝の開室をさせていただいていますので、多いときには22日くらい開室があります。月に延べ人数で44名の方に入らせていただきますので、数的には十分に足りています。そういう状況もある為か、私は引退させていただきますという風におっしゃられた地域の方もいました。地域の方から見たらお母さんたちが主体になってやる方が良いと思ってらっしゃるのかもしれない。

活動に来ていただくとはんとに来て良かったと言っただけですし、色々な話もお聞きできるので、どんどん地域の方に来ていただきたいのですが、どのように呼びかけを行うと良いのかが課題となっています。

今、お孫さんが来年小学校に上がられる方で、「すまいるねっとうしん」をご覧になったことがきっかけで参加していただいている地域の方がおられます。

引き続き、こちらから何かアピールをしていかないといけないと思っています。

<樋口議長>

学校は、子どもと保護者が関わっている場所という概念がありますから、その中に入っていくことは、地域の方にとっても壁があると思います。

また、子どもが卒業してしまうと、保護者として関わらねばならないという使命感がなくなってしまいますし、卒業後に学校に入っていくことに少し抵抗が出たりします。

S m i l e ねっとの活動を楽しみにして来てくださっている地域の方がいるのであれば、やはりその方に続けていただくということを優先するべきだと思います。

継続して活動していくことが非常に大事ですので、地域の方に優先して来ていただけるような体制を作っていく必要があります。

<土居委員>

その点については、非常に危惧しているところです。すまいるクラブでも、地域のおじいちゃんが1人で参加をしてくださることがありますので、一人ぼっちにならないように声かけは意識して行っています。

<田中委員>

地域の方に、活動に参加していただくために、どのような方法で呼びかけを行っていますか。

<宇佐見委員>

コミスクが月に1回幹事会を開いていますので、そちらに川上委員がS m i l e ねっと代表で参加し、活動の説明や周知をしています。すまいるクラブの講師の方には個々に依頼をし、ボランティアの募集につきましては、老人クラブや自治会等に御案内を出しました。

浜風学びクラブを見学した時に、保護者と地域のボランティアが同じくらいの割合で参加していました。しかし、すまいるクラブでは、参加者の大半が保護者です。今ボランティアが、保護者だけで30名います。子どもも今79名いますので、1回の活動に保護者の方30人と子ども79名で、100人を超えますので、部屋がいっぱい状態になります。その状況を地域の方が見たときに、地域が参加しなくても良いと思われるかもしれないという懸念はあります。浜風では、地域の方がたくさん入っておられるので、募集の仕方を参考にさせていただきたいと思います。

<信岡委員>

私の住む地域の運動会では、町内別のテントの中でお弁当を食べるなどを通じて地域の交流の場所になっています。そのような場所がきっかけとなって、初対面の人とも話をし、顔見知りになって、学校の色々な行事にも参加がしやすい雰囲気が出来ていると思います。地域の顔つなぎには、非常に効果的な催しだと思います。

<万谷委員>

地域コミュニティを作るのは、催しが一番効果的だと思います。また、地域連携をさらに発展させるためには、学校から地域へ呼びかけるなどの仕掛けが必要ではないでしょうか。例えば、園芸活動でしたら、花壇に咲かせるまでの苗作りを地域の方にお願いすることや、また、図書館では、今は子どもの図書しかありませんが、大人の図書も置いて、地域図書館のように子どもと一緒に大人も来られるような雰囲気をつくるなどの取り組みなどの仕掛けを作ることが大切と考えます。今年度から開始された給食支援活動は、地域の方に学校に足を運んでいただくという点は、仕掛けであり、非常に大きな効果があったのではないかと思います。

<樋口委員>

地域の方に学校に足を運んでいただく方法として、学校側から支援して欲しい内容を地域に協力を求めるような要望として出していくという方法もあるかと思います。

例えば、芦屋市には社会教育関係団体のとして市に登録して活動している団体がたくさんあります。活動内容などは生涯学習課で把握していますので、聞いていただければ紹介できます。精道小学校区で、活動している団体の方々と繋がりを持つことは難しい話だと思います。

<宇佐見委員>

それは、取り組んでいくべき内容だと思っております。教育支援活動を行うにあたり、今年度先生方に、どのような支援が必要かお聞きいたしました。例えば、2年生の九九の支援や校外学習の引率など、多様な場面で支援させていただくとの事でアンケートをとりました。

要望があったのは、5年生の調理実習のさばの三枚おろしの補助でした。実際に子どもたちが包丁を使用しますので、大人の目が必要とのことで、17名の方に来ていただきました。

しかし、先生によっては余裕がないという理由もあつてか、ボランティアへの説明や受け入れ準備などで時間を取られるのであれば、自分1人で頑張ろうという思いで、支援を要請することに、二の足を踏まれている方もいらっしゃいます。ボランティアが入る事は先生の負担になる事ではないということをご理解いただくために、先生方と話す機会が必要だと感じました。

<上月委員>

おっしゃるとおりですが、非常に難しいところです。時間調整や評価のこともありますし、先生によって考え方もあります。すまいるクラブの支援がいつでもあるというのを、今後も伝えていきたいと思います。

<宇佐見委員>

もっと先生とのコミュニケーションを取る必要があると思います。

<樋口委員>

それぞれの立場がありますので、お互いが連携しあえるか、そこが一番難しいところだと思います。芦屋という地域において、学校をひとつの活動拠点として考えていくことが、非常に大事なことであり、社会教育委員として思っています。芦屋は教育等に関して高い意識を持った方々が、非常に多い地域です。そういう方々に活動していただく場を提供する方法を考えることが、私たち社会教育委員の役割だと思っております。出来ることから少しずつ始めていく、そして出来るだけ楽しみを見つけ出していただくことが大切です。

それでは、時間となりました。皆さんに課題などの意見をたくさんいただきましたので、研修会の発表内容に盛り込ませていただきます。以上で、意見交換会を閉会します。

<事務局：北詰>

今後の日程 11月27日(火) 15:00 研修会 西宮市中央公民館
1月 8日(火) 15:00 第5回会議 教育委員会室

以上